

今週のメニュー

■トピックス

◇食品用器具・容器包装のポジティブリスト（PL）制度導入と協議会の対応について
塩ビ食品衛生協議会 常務理事 石動正和

■随想

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（8）－水－
元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇食品用器具・容器包装のポジティブリスト（PL）制度導入と協議会の対応について
塩ビ食品衛生協議会 常務理事 石動正和

本年6月1日食品用器具・容器包装にポジティブリスト制度施行を控え、2月18日3衛協（3衛協）※はニッショーホールで会員説明会を開催した。前半厚労省中山課長の講演があり、後半3衛協から今後の対応について報告した。ここで当協議会（塩ビ食品衛生協議会）の報告のポイントを紹介する。

※3衛協：ポリオレフィン等衛生協議会、塩ビ食品衛生協議会、塩化ビニリデン衛生協議会

塩ビ食品衛生協議会（協議会）は1967年設立され、1970年自主規格第1版を発行し、1971年確認証明書制度を設立した。1973年には日本初の材質別規格として、PVCを対象に厚生省環境衛生局長通知「食品、添加物等の規格基準の一部改正について」（昭和48年7月20日環食化第541号）が公布され、自主規格第3版が国の材質別規格のガイドラインとして紹介された。ここで局長通達とされた背景として、自主規格が食品用器具・容器包装以外に医薬品包装材料にも参照されていたことがある。

協議会は現在190会員を擁し、特に内外の規制情報を会員企業にいち早く情報提供し事業戦略に活用してもらうことを目指している。特に2008年頃より始まったPL制度導入の動きに対しては、これまでおよそ40回の会員説明会を開催し最新情報を提供してきた。また2006年には組織のスリム化を図るため、事務局メンバーは所属企業から塩ビ工業・環境協会（VEC）に出向し、協議会の業務を担当する形を取った。2019年8月にはVEC提案により事務所を六甲ビル6Fより8FのVECエリアに移転した。



食品衛生法：食品用器具・容器包装の定義
（厚生労働省「食品用器具及び容器包装の規制の在り方に関する技術検討会」資料より）

PL制度に業界として組織的に対応するため2019年5月31日発足した「食品接触材料管理制度推進に向けた準備委員会（準備委員会）」は、議論を経て7月25日（一財）化学

研究評価機構に食品接触材料安全センター（センター）を設立する提案を全会一致で決定した。センター設立に向け、準備委員会は10月9日3衛協に協力依頼書を、（一財）化学研究評価機構は11月13日3衛協に検討依頼書を発出した。協議会はいずれも積極的に検討する旨回答したが、ここで問題となったのは自主規格を長年運用する中で適用されてきた食品用器具・容器包装以外の分野へのフォローであった。医薬品包装材料分野がその一例である。この分野は高齢化社会が進む中、成長分野として期待されている。

この問題への対応についてVECと意見交換した結果、2020年6月1日設立されるセンターは食品用器具・容器包装分野を専門とするため、医薬品包装分野まで事業範囲を拡大するのは難しいと判断された。そのため協議会事務局メンバーがVECに所属している状況を活用し、今後センターを中心とする業務とVECでの業務を兼務する形で、食品用器具・容器包装分野とともに医薬品包装分野をフォローすることとした。

14年前化学業界団体が集結している六甲ビルに引っ越したとき、協議会の事業において、機能面では3衛協間の協力関係を、材料面ではVECとの協力関係を強化できると期待してきた。この間こうした協力関係が見える形になっていることに喜んでいる。

■ 随想

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（8）－水－

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

砂漠地帯に位置するヨルダン・ハシミテ王国、水問題は深刻です。国内には国名の由来にもなった「ヨルダン川」が流れていますが、この川、シリアとレバノン国境の山の水源から流れ出し、ヨルダン・ハシミテ王国だけでなく、パレスチナ、イスラエル、エジプトとの国境線を形成しながら死海に流れ込んでいる国際河川です。

どの国も砂漠地帯なので水は非常に貴重なもの。この地域は国境線が原因の紛争も多いですが、水をめぐる紛争が多い地域でもあります。

このためイスラエルはこのような水紛争による供給不安から脱却するため、地中海から海の水を汲み上げ、逆浸透膜法による世界最大の淡水化プラントを稼働させ、近隣諸国に水を売る事業を始めています。

ヨルダン・ハシミテ王国でもイスラエルと水の購入契約を結んでいます。両国間の関係が不安定になると供給が途絶します。

現在、比較的安定的な関係になっているヨルダン・ハシミテ王国とイスラエルの間で、より一層の安定的な水の供給のため、両国が面している紅海に淡水化プラントを作り、水を供給する計画が進められています。

しかし、ヨルダン・ハシミテ王国国内では、水道設備の老朽化による漏水の多



路上に露出している水道管
これでは簡単に盗水出来てしまいます

発、水道管を勝手に分岐し、水を自宅に引き込む盗水（日本と異なり、水道管、道路の脇に剥き出しのまま敷設されているところが多いので、水を盗もうと思うと簡単に盗めます）などの問題があり、日本政府も 2017 年、ヨルダン・ハシミテ王国に対し、水道の改修・拡張工事のため、約 14 億円の無償援助を行うことを発表しています。

このように水についてはかなり深刻な状況で、都市の一部では 24 時間給水が行われているところもありますが、基本的には時間給水です。

つい最近まで、首都アンマンでさえ水道が出るのは週に 1~2 回という状況でした。

このため、どの家庭、事務所でも建物の屋根や裏に大きな水タンクが設置されており、1 週間程度の水を溜めておくことが普通です。



住宅の屋根に並んでいる水タンク
左の屋根の上に 4 つ並んでいます

水質はかなりの硬水。カルシウム分が多く、口に含んでも滑らかさはありません。蛇口やシンクなども、頻繁に水を拭き取らないと、すぐにカルシウムが固まり、白く、ザラザラした汚れが残ります。

水道水、飲めるとされていますが、あまりにもカルシウム分が多く硬いのと、「水道管 → 貯水タンク → 蛇口」と蛇口が水道管直結になっておらず、実際に使う水は汲み置きした水となるので飲料には適していません。一週間汲み置きした水ですから、どんな雑菌が潜んでいるのやら (^_^);

このため、ペットボトルに入ったミネラルウォーターを飲むのが当たり前なのですが、ペットボトルのリサイクルが行われていないため、街中に空のペットボトルが溢れています。

また、給水されている水道水も水圧、水量も低く、日本のジャージャーと蛇口から水が出てくることに慣れていると、ちょっとイライラします。

困るのは水洗トイレ。

水が不足しているため、超節水型水洗トイレです。

流れる水量が極端に少ないため、トイレトペーパーを流すと、詰まりの原因となります。何度も流そうとすると、水量が低いのでトイレのタンクになかなか水が溜まらず、待たされることに。このため、使い終わったトイレトペーパーは、水に流さず、トイレに必ず置かれているごみ箱に捨てます。

基本的に中東はウォシュレット（日本とは異なり、トイレに蛇口とホースが付いていて、それで洗います。最近ではホースの先に小型のシャワーヘッドが付いているものもあります）なので、紙を使う量はかなり少ないですし、使用後の紙も洗った後の水分を拭き取るだけなので、それほど汚くはないはずですが、

トイレトペーパーをそのまま流せない国、中東をはじめ南米の国でもいくつかありますが、こればかりはどうも馴染めません (^_^)

(続く)

次回は、(9) -ヨルダン・ハシミテ王国いろいろ (その1) -です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
